

列王記によれば、ヨヤキムが死に、息子ヨヤキンが王位についたものの、エジプトとのパイプが弱まり、すぐにバビロンの武将がエルサレムを包囲し、ネブカドレツアルが来て、ヨヤキンを捕らえました。神殿、王宮の宝物を奪い、高官、軍人7000人、職人、鍛冶1000人、戦士をすべて捕囚としました。ヨヤキン、ヨヤキンの母、王妃たち、宦官、有力者たちも捕囚となりました。ネブカドレツアルは、ヨヤキンの叔父ゼデキヤを王としました。

ゼデキヤは高官、祭司をエレミヤに派遣し、苦境から救われるよう、奇跡が与えられるよう、エレミヤに祈るように求めます。エレミヤは **バビロンの王やカルデア人の武器の矛先をこの都の真ん中に集め、この都に住む者を、人も獣も撃つ。主はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの前に命の道と死の道を置く。この都にとどまる者は、戦いと飢饉と疫病によって死ぬ。この都を出て包囲しているカルデア人に、降伏する者は生き残り、命だけは助かる(21:3)** と、**降伏しか生き残る道はない**と言います。ゼデキヤに**轡を負え**と言ひ、**主の言葉を聞け。朝ごとに正しい裁きを行え。搾取されている人を虐げる者の手から救い出せ**と言います。そして、ユダ王国の歴代の王たちの運命を語り、特にヨヤキンを惜しんで悲しむのです。ダビデの王座は失われるが、**見よ、このような日が来る、と主は言われる。わたしはダビデのために正しい若枝を起こす。王は治め、栄え この国に正義と恵みの業を行う。彼の代にユダは救われ/イスラエルは安らかに住む。彼の名は、「主は我らの正義」と呼ばれる(23:5)** と神の救いは必ずあるとエレミヤは確信しているのです。

一方、預言者ハナンヤは「**イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしはバビロンの王の轡を打ち砕く。二年のうちに主の神殿の祭具をすべてこの場所に持ち帰らせる。また、バビロンへ連行されたユダの王、および捕囚の民をすべて、わたしはこの場所へ連れ帰る、と主は言われる。なぜなら、わたしがバビロンの王の轡を打ち砕くからである。(28:2)** と、エレミヤの預言と全く逆の預言をします。ハナンヤは偽預言者として裁かれるとエレミヤは言いますが、王たちはハナンヤの言葉を信じ、誰一人エレミヤの言葉を受け入れる者はいません。エレミヤは捕囚となった長老、祭司、預言者、民に手紙を書き送りました。「**そちらで人口を増やし、町の平安を求めて、祈れ。時が満ちたなら主はこの地に連れ戻す。主は平和の計画を持っている。あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしをを求めるなら、わたしに出会うであろう、と主は言われる(29:12)**」と祈り求めることを勧めています。ところが、バビロンからは**エレミヤが送った手紙**を批判し、エレミヤを取り締まれという手紙が祭司たちに送られてきて、エレミヤは責められます。

神の激しい怒りが神に逆らう者の頭上に吹き荒れ、民も苦悩に満ちて、嘆き、泣く声が聞こえてきます。エレミヤは神へ立ち帰る道が見失われたと、闇の中で苦しみます。この時、苦しむ自分を憐れまれる神の眼差しを感じ、エレミヤは主が回復してくださるとい希望の光が見えてくるのです。



一人の指導者が彼らの間から、治める者が彼らの中から出る。わたしが彼を近づけるので彼はわたしのもとに来る。彼のほか、誰が命をかけてわたしに近づくであろうか(30:21) と「**取り成す者、贖う者**」が与えられると預言します。そして**新しい契約を結ぶ日が来る**と預言します。

しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。(31:33)

律法順守にはよらず、**神が人の罪を一方的に赦してくださる**という「契約の日」を待ちます。